

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	自然緑地計画論演習						授業形態		演習	
科目コード	710041	単位数	4単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	平岡 直樹								ICT活 用	○
授業概要	本授業の目的は、造園家として、またランドスケープや環境の専門技術者として、自然緑地を扱う上で必要な技術や知識に関して演習を通して学ぶことである。 自然公園など広域を対象とした図面、縮尺の小さな地図を読み取る技術の修得や表現方法を身に付ける。 さらには、設計事務所やコンサルタント業務の実情の把握なども同時に行う。 「自然緑地計画論」の知識を基礎としてより実践的に身につけるための授業である。 建設コンサルタント（都市計画及び地方計画部門）にて実務経験を有する教員が、自然環境の調査、計画に関する業務の実例について、写真や図版を用いながら解説する。									
関連する科目	造園学概論を事前に、自然緑地計画論を同時に受講することが不可欠である。履修後は、景観論、都市計画論、都市緑地論、建築学概論を履修することが望ましい。									
授業の進め方 と方法	毎授業でアクティブラーニング型の演習授業を行う。毎回新たな演習課題を提示する。 1回の授業の構成は以下の通りである。 授業の冒頭において、課題の概要を提示する。各自またはグループで相談、作業の分担を行い課題に取り組んでもらう。不明な点があれば質問を受け付ける。 授業の終盤に提出または発表し、必要に応じて修正を指示する。 基本的には、授業内で課題を完成させて欲しい。									
授業計画 【第1回】	講義内容の紹介 講義の内容、目的等の紹介を行う。									
授業計画 【第2回】	地図の基礎演習 ー地図の縮尺の違い 簡易な土地利用図・植生図の作成を行う。									
授業計画 【第3回】	空間特性（立地条件）から見た自然緑地の分類 言葉の定義と地形図の対応関係を知る。 自然緑地の領域検討図の作成を行う。									
授業計画 【第4回】	データ読み取りの基礎演習 実体視鏡とプランメータを使った空中写真や土地面積・外周延長の読み取りを行う。									
授業計画 【第5回】	自然緑地と地形① 自然緑地の空間特性別分類図の作成を行う。									
授業計画 【第6回】	自然緑地と地形② 自然緑地の横断面図の作成を行う。									
授業計画 【第7回】	自然緑地と植生調査① 樹木調査表から樹幹投影図の作成を行う。									
授業計画 【第8回】	自然緑地と植生調査② 樹高・樹冠比較図及び樹高・胸高直径関係グラフ作成を行う。									
授業計画 【第9回】	自然緑地と標高 自然緑地の標高図の作成を行う。									
授業計画 【第10回】	人工林の実態と施業の視察体験（日程変更の可能性あり） 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センターにて林業施業の体験を行う。									

授業計画 【第11回】	自然緑地と傾斜 自然緑地の傾斜度図の作成を行う。
授業計画 【第12回】	自然緑地と等高線 自然緑地の等高線模型の作成を行う。
授業計画 【第13回】	自然公園の現状と課題抽出① 近隣の自然公園の現地調査を行う。
授業計画 【第14回】	自然緑地と水循環（流域システム） 流域界図の作成を行う。
授業計画 【第15回】	自然公園の現状と課題抽出② 近隣の自然公園の課題抽出と発表を行う。
授業の到達目標	1) 自然緑地について体系的に学び、自然環境や社会にどんな役割を果たし、どんな問題点を抱えているかを考える力を身につけ、さらにそれぞれが自らの自然観もより豊かにする。【専門分野の知識・理解】 2) 自然緑地にかかわる専門職業人として必要な基礎的知識や技術を学び、持続可能な循環型社会の実現に向けた課題発見と問題解決をはかるための実践的技術を身につける。【専門分野のスキル】【課題発見・分析・解決力】【プレゼンテーション力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外学習【予習】	第1回目の授業で示す参考図書など自然緑地や自然環境保全修復技術に関する資料を授業前に読んでおく。 また、自然緑地の成り立ちを理解し、自然緑地計画に関わる技術力を身につけるため、授業中に紹介する全国的に知られた自然緑地や、身近な自然緑地の計画に関わる資料や図版等を見ておく。（平均約1時間）
授業時間外学習【復習】	第1回目の授業で示す参考図書など自然緑地や自然環境保全修復技術に関する資料について、授業後に理解が曖昧な時は再度精読しておく。（約1時間）
課題に対する フィードバック	課題は、提出前にチェックを受ける。必要に応じて、修正を求める。 次回以降に返却する。必要がある時はコメントする。
評価方法・基準	提出された課題の理解度、完成度、プレゼンテーションの程度で評価する。課題の提出数が一定数に満たない場合は単位を出さない。
テキスト	授業中において配布する資料及び紹介又は指示する書籍
参考書	第1回目の授業（ガイダンス）において紹介します。主なものの一部を以下に示す。 ①環境省編『令和4年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』、日経印刷、2026 ②石川徹也『日本の自然保護 尾瀬から白保、そして21世紀へ』（平凡社新書）平凡社、2001 ③森山、平岡他『ランドスケープアーキテクチャーの起点』ぎょうせい、2007
備考	